



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

コード番号 6879 URL <http://www.imagicarobot.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田 真人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 経営管理本部 担当 (氏名) 安藤 潤

TEL 03-6741-5742

四半期報告書提出予定日 平成27年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	39,071	8.1	1,740	45.5	1,749	35.0	1,081	4.4
26年3月期第3四半期	36,152	△0.7	1,196	△12.7	1,296	△11.3	1,035	215.1

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 1,398百万円 (△0.1%) 26年3月期第3四半期 1,399百万円 (229.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	24.38	—
26年3月期第3四半期	24.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	42,289	27,672	64.7
26年3月期	42,045	26,148	61.5

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 27,356百万円 26年3月期 25,842百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,000	0.9	2,100	2.6	2,180	0.1	1,260	△18.2	28.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 詳細は、添付資料3ページ【2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用】をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無
 詳細は、添付資料3ページ【2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示】をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	44,531,567 株	26年3月期	44,531,567 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	108 株	26年3月期	2,059,465 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	44,359,256 株	26年3月期3Q	42,472,102 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当第3四半期連結累計期間の概要

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や金融政策により、景気は緩やかな回復基調が続く中で、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や消費マインドの低下、海外景気の下振れなどの要因により依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の下で、当社グループは、映像ビジネスにおいて幅広い事業展開を行っており、グループ一丸となって、経営ビジョンに掲げております「映像コミュニケーションにおける新たな価値創造」に向けて、グループの総合力を発揮し、収益力及び財務体質を強化することに取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は390億71百万円（前年同四半期比8.1%増）、営業利益は17億40百万円（前年同四半期比45.5%増）、経常利益は17億49百万円（前年同四半期比35.0%増）、四半期純利益は10億81百万円（前年同四半期比4.4%増）を計上いたしました。

②セグメント別の業績

1)映像技術サービス事業

ポストプロダクション作業におけるテレビ番組関連作業は、主力のバラエティ番組の年末特番を中心とした受注が堅調に推移しました。一方、CM関連作業及びデジタルシネマ関連作業では、受注が低調に推移し、前年同四半期の実績をやや下回る結果となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は107億61百万円（前年同四半期比6.3%減）、営業利益は7億3百万円（前年同四半期比23.9%減）となりました。

2)映像ソフト事業

CM制作におきましては、受注本数の増加に加え大型案件を確保したことにより好調に推移し、前年同四半期の実績を上回りました。コンテンツ制作におきましては、制作と出資を行った劇場映画「紙の月」及び「寄生獣」が当四半期に公開されました。またイベント映像関連では、3Dプロジェクションマッピングの映像制作において、常設案件等の受注を確保し堅調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は89億22百万円（前年同四半期比18.6%増）、営業利益は2億61百万円（前年同四半期比1,427.7%増）となりました。

3)放送事業

放送分野におきましては、「イマジカBS」「歌謡ポップスチャンネル」「FOODIES TV」の3チャンネルを運営しております。「イマジカBS」は、加入者が着実に増加しており増収基調にあります。「歌謡ポップスチャンネル」は、ケーブルテレビ等の加入者数及び広告収入の増加に加え、編成費の削減により収益面においても好調に推移いたしました。また、ホテル事業分野におきましては、堅調な受注と経費等の圧縮により営業利益は前年同四半期の実績を上回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は41億97百万円（前年同四半期比4.2%増）、営業利益は61百万円（前年同四半期は営業損失46百万円）となりました。

4)映像システム事業

イメージング分野におきましては、主力の高速度デジタルビデオカメラの販売が、新製品の導入が本格稼働している中で、国内・海外販売ともに好調に推移し前年同四半期の実績を上回りました。プロ用映像機器分野におきましては、大型案件等の受注や保守収入により前年同四半期の実績を上回りました。またCADソリューション分野におきましては、CADシステムにおける主力商品の販売が堅調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は95億65百万円（前年同四半期比25.0%増）、営業利益は14億44百万円（前年同四半期比58.0%増）となりました。

5)人材コンサルティング事業

人材派遣・請負サービス分野におきましては、主力の派遣事業では主にWeb職種やゲームエンタテインメント職種を中心に派遣者数が増加したことにより、前年同四半期の実績を上回りました。映像技術職種におきましても、派遣者数が増加し堅調に推移いたしました。一方、コンテンツ制作受託の分野におきましては、ゲーム制作受託案件の受注が低迷したことにより、前年同四半期の実績を下回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は88億17百万円（前年同四半期比6.8%増）、営業利益は1億57百万円（前年同四半期比38.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて2億0百万円（0.7%）増加し、280億14百万円となりました。

これは主に、たな卸資産の増加等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて43百万円（0.3%）増加し、142億74百万円となりました。

これは主に、株価上昇による投資有価証券の増加等によるものであります。

これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて2億44百万円（0.6%）増加し、422億89百万円となりました。

②負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて12億68百万円（9.9%）減少し、115億2百万円となりました。

これは主に、支払手形及び買掛金の減少等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12百万円（0.4%）減少し、31億14百万円となりました。

これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて12億80百万円（8.1%）減少し、146億16百万円となりました。

③純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ15億24百万円（5.8%）増加し、276億72百万円となりました。

これは主に、自己株式の処分による資本剰余金の増加、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加、及び株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期通期連結業績予想につきましては、平成26年5月8日に公表しました前回発表値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

この結果、従来の割引率から変更が生じなかったため、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,747,988	12,106,392
受取手形及び売掛金	10,862,373	7,946,951
たな卸資産	5,491,242	6,138,078
繰延税金資産	878,954	936,145
その他	888,276	922,811
貸倒引当金	△54,516	△35,423
流動資産合計	27,814,319	28,014,954
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,916,716	11,926,386
減価償却累計額	△8,709,300	△8,923,156
減損損失累計額	△187,693	△206,542
建物及び構築物（純額）	3,019,722	2,796,686
機械装置及び運搬具	19,410,491	17,803,746
減価償却累計額	△18,006,119	△16,608,207
減損損失累計額	△228,489	△210,993
機械装置及び運搬具（純額）	1,175,882	984,546
土地	2,997,730	2,997,730
建設仮勘定	132,078	34,957
その他	3,363,240	3,249,095
減価償却累計額	△2,451,267	△2,440,597
減損損失累計額	△34,933	△32,994
その他（純額）	877,039	775,504
有形固定資産合計	8,202,453	7,589,424
無形固定資産		
ソフトウェア	488,324	580,432
のれん	1,839	120
その他	89,557	154,539
無形固定資産合計	579,720	735,092
投資その他の資産		
投資有価証券	3,146,319	3,439,398
関係会社株式	444,404	533,674
敷金及び保証金	803,912	1,026,623
繰延税金資産	807,159	744,090
その他	368,349	329,944
貸倒引当金	△121,261	△123,808
投資その他の資産合計	5,448,883	5,949,922
固定資産合計	14,231,057	14,274,439
資産合計	42,045,376	42,289,394

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,933,287	3,350,065
短期借入金	2,000,000	2,000,000
未払金	784,258	659,536
未払法人税等	591,221	340,539
賞与引当金	1,120,254	469,119
変動役員等報酬引当金	143,945	131,818
受注損失引当金	56,478	74,164
その他	3,140,799	4,476,951
流動負債合計	12,770,245	11,502,193
固定負債		
長期末払金	357,196	310,887
繰延税金負債	532,440	607,986
退職給付に係る負債	1,866,822	1,907,706
その他	370,578	287,952
固定負債合計	3,127,036	3,114,533
負債合計	15,897,282	14,616,727
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,244,915	3,244,915
資本剰余金	14,414,513	15,187,973
利益剰余金	7,785,652	8,230,228
自己株式	△51	△42
株主資本合計	25,445,029	26,663,074
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	573,692	793,713
繰延ヘッジ損益	—	55
土地再評価差額金	△17,933	△17,933
為替換算調整勘定	△80,507	△26,816
退職給付に係る調整累計額	△77,353	△55,535
その他の包括利益累計額合計	397,898	693,484
少数株主持分	305,166	316,108
純資産合計	26,148,094	27,672,667
負債純資産合計	42,045,376	42,289,394

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	36,152,327	39,071,486
売上原価	25,826,928	27,848,162
売上総利益	10,325,398	11,223,323
販売費及び一般管理費	9,129,113	9,482,728
営業利益	1,196,285	1,740,594
営業外収益		
受取利息	2,743	1,963
受取配当金	98,580	50,320
持分法による投資利益	19,331	29,148
その他	57,151	56,447
営業外収益合計	177,806	137,880
営業外費用		
支払利息	9,579	7,731
為替差損	56,223	81,213
その他	11,671	39,630
営業外費用合計	77,474	128,575
経常利益	1,296,616	1,749,899
特別利益		
固定資産売却益	289	8
関係会社株式売却益	229,257	—
会員権売却益	5,351	1,620
その他	46,210	89
特別利益合計	281,108	1,718
特別損失		
固定資産売却損	14,053	2,534
固定資産除却損	11,440	7,750
移転費用	—	25,829
その他	10,674	668
特別損失合計	36,168	36,783
税金等調整前四半期純利益	1,541,557	1,714,835
法人税等	481,482	612,128
少数株主損益調整前四半期純利益	1,060,075	1,102,706
少数株主利益	24,440	21,049
四半期純利益	1,035,634	1,081,657

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,060,075	1,102,706
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	265,359	220,021
繰延ヘッジ損益	—	55
為替換算調整勘定	73,669	53,691
退職給付に係る調整額	—	21,818
その他の包括利益合計	339,029	295,586
四半期包括利益	1,399,104	1,398,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,374,664	1,377,244
少数株主に係る四半期包括利益	24,440	21,049

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年4月4日開催の取締役会決議に基づき、公募による自己株式の処分を行い、平成26年4月24日を払込期日として普通株式2,059,400株を処分いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が773,459千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金は15,187,973千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像技術サービス	映像ソフト	放送	映像システム	人材コンサルティング	計		
売上高								
外部顧客への売上高	11,198,220	7,445,362	4,017,113	7,412,191	6,075,606	36,148,494	3,833	36,152,327
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	286,839	80,726	12,632	240,199	2,178,919	2,799,316	△2,799,316	—
計	11,485,059	7,526,088	4,029,745	7,652,391	8,254,526	38,947,811	△2,795,483	36,152,327
セグメント利益又は 損失(△)	925,279	17,145	△46,455	914,375	253,924	2,064,269	△867,984	1,196,285

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△867,984千円は、持株会社(連結財務諸表提出会社)等に係る損益404,899千円及びセグメント間取引消去△1,272,883千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「人材コンサルティング」セグメントにおいて、当社の連結子会社であります株式会社イマジカデジタルスケープが、株式会社コスモ・スペースの発行済株式の80%を取得し子会社化したことにより、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれんを一括償却したことにより、当第3四半期連結累計期間において負ののれん発生益45,183千円を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像技術サ ービス	映像ソフト	放送	映像システ ム	人材コンサ ルティング	計		
売上高								
外部顧客への売 上高	10,296,848	8,899,339	4,186,773	9,295,840	6,382,934	39,061,737	9,749	39,071,486
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	464,662	23,080	11,016	270,125	2,434,810	3,203,694	△3,203,694	—
計	10,761,511	8,922,419	4,197,789	9,565,965	8,817,744	42,265,431	△3,193,944	39,071,486
セグメント利益	703,713	261,921	61,533	1,444,397	157,078	2,628,645	△888,051	1,740,594

(注) 1.セグメント利益の調整額△888,051千円は、持株会社(連結財務諸表提出会社)等に係る損益407,491千円及びセグメント間取引消去△1,295,543千円であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

映像システムセグメントにおいて、翌連結会計年度中に事務所移転を行うことを決議したことにより、建物附属設備に係る減損損失を19,268千円計上しております。なお、当該減損損失は、四半期連結損益計算書において、特別損失の移転費用に含めて表示しております。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。